

ナミビア大学オゴンゴキャンパス 2025 年米収穫祭への出席 (令和 7 年 6 月 19 日)

令和 7 年 6 月 19 日、麻妻大使は、オムサティ州に位置するナミビア大学（UNAM）オゴンゴキャンパスの農場で開催された 2025 年オゴンゴキャンパス米収穫祭において基調講演を行いました。

オゴンゴ米の生産活動は、JICA 等の日本機関が UNAM オゴンゴキャンパスと協力して実施した「日本・ナミビア 米・マハングプロジェクト」（2012 年～2017 年）に端を発しています。星野明彦 JICA ナミビア支所長も、エンジャラ(Hon. Erginus Endjala)オムサティ州知事、イリマリ（Hon. Elia Kaulifewangali Irimari）オシャナ州知事、シイミ（Hon. Gerhard Shiimi）国民議会議員、その他の来賓と共にイベントに出席しました。ンガイスエ（Mr. Godfrey Ngaisue）DEBMARINE 社執行委員会委員兼鉱物資源部長、マテング（Prof. Kenneth Matengu）ナミビア大学副学長、オゴンゴキャンパス統括責任者のムベレマ（Dr. Christopher Mberema）博士は、日本政府の稲作生産におけるレガシーと、農業及び教育分野における長年の支援によってナミビアの食料安全保障の向上につながっていると、感謝の意を表明しました。



（左）麻妻大使による挨拶（右）異なる村から来た 2 人の小規模農家が、米の生産によって生活がどのように向上したかについて経験を共有する様子。



稲刈りを行う麻妻大使（左）と星野 JICA ナミビア支所長（右）



（左）アワラ教授（Prof. Simon Awala)UNAM 作物生産・農業技術学科長が、田植え作業を実演する様子。

アワラ教授は、「日本・ナミビア米・マハングプロジェクト」を通じた、修士号（名古屋大学）・博士号（近畿大学）の奨学金制度の最初の裨益者の一人であり、現在 UNAM オゴンゴキャンパスで米の生産を統括している。



（上）オゴンゴキャンパスで生産された製品



（左、上）JICA がかつて UNAM オゴンゴキャンパスの農場に供与した農業関連機材